課題名：露地ネギ栽培におけるべと病を中心とした病害の予防防除技術の確立　【普及】

ネギべと病、ネギ黒腐菌核病、ネギ黒斑病に対する予防防除技術を明確化

農林センター　問い合わせ先：農林センター環境部（0771-22-6494）

背景

- ネギ産地から各種病害の相談が増加。
- 3年連続(2016～2018年)でネギべと病が府内全域で大発生。2021年にも南丹地域で大発生。

課題など

- 薬剤散布、罹病株の除去等の防除対策が施されるが、病害発生後の対応であるため、病勢を抑えきれない事例が多い。
- 府内におけるネギべと病の発生消長が不明のため、予防防除の実施適期が分からない。

主な結果

ネギべと病

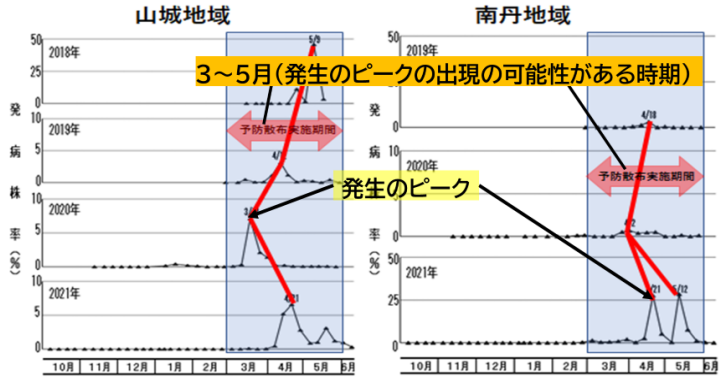

図1　ネギべと病の年次別発生推移

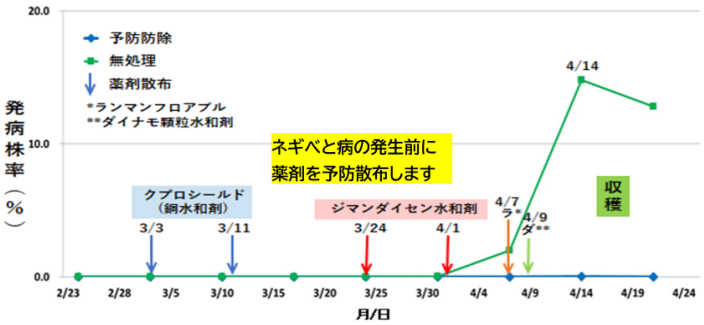

図2　ネギべと病に対する予防防除の防除効果（2021年春季）

ネギ黒腐菌核病

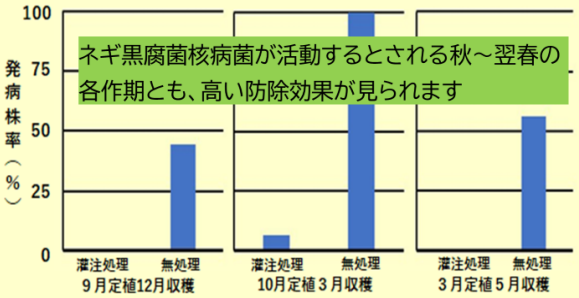

図3　ネギ黒腐菌核病に対するセル成形苗への定植前灌注処理の作期別防除効果

ネギ黒斑病

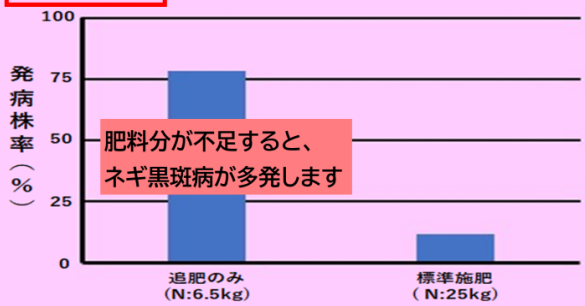

図4　施肥量の違いがネギ黒斑病の発生に及ぼす影響

成果

- ネギべと病の発生消長調査結果から予防防除の時期は3～5月(図1)。
- ネギべと病に対する予防防除として、ジマンダイセン水和剤を主体とした7～10日間隔の予防散布が有効(図2)。
- ネギ黒腐菌核病に対する予防防除として、定植前セルトレイ灌注処理(パレード20フロアブル100倍液、0.5L/1トレイ)が有効(図3)。
- ネギ黒斑病に対する予防防除として、肥培管理の徹底が重要(図4)。

今後の展開　● 年次変動するネギべと病の発生のピークの出現時期を予測できるようにします。